

春を呼ぶ、桃の花の愛らしさとともに

雛人形の歴史

雛人形の歴史は古く平安初期。今から二〇〇〇年も前に遡ります。源氏物語の中にも「ひいなの遊び」と呼んで宮中の幼い姫たちの遊びが記されています。三月三日あるいは三月上巳(最初の巳の日)にお祓いをした人形(紙や草で作った簡素な形代)を水に流して送ると、年間無病息災でいられるという「流し雛」の風習がひな祭りの起こりと言われています。

室町時代の末頃から始まった三月三日のひな祭りは、戦国の世を経て平和が訪れた江戸時代に華麗な女の子のための行事となっていました。寛永六年京都の御所で盛大なひな祭りがおこなわれたのをきっかけに、幕府も大奥でもひな祭りをおこなうようになりました。江戸時代の中ごろになると、女の子の誕生を祝つて初節句に雛人形を飾る風習も生まれ、豪華なものも作られるようになってきました。女の子が健やかに、そして可愛らしく育つように、病気や事故なく幸福な人生を過ごせるようとの願いが込められたひな祭りの行事は連綿と今に伝わっています。





贈答のしきたり

一般的には、お雛様は嫁いだ側の実家から贈られます。最近は両家で費用を折半したりする場合もあります。「ご親戚や、お仲人はケース入りのお人形などを贈るのがよい」と思っています。

飾る時期

お雛様は届く日または、飾る日が大切ですので、良い日を選んで、飾つて下さい。お店によつては「婚期が遅れる」から早く買つて飾り、3日の夜には仕舞つて下さい」と説明して販売されます。しかし、3月3日の夜に仕舞わないとお嫁に行くのが遅くなる……といつ史実による根拠はありません。

ひな祭りは3月2日・宵節句(宵祭り)、3月3日・本節句(本祭り)、3月4日・送り節句(後祭り)、といつて3日間の祭事日が正しいのです。昔の人は3月4日をお雛さまに別れを告げるため、送り節句と名付けました。こんなところにも思いやりの心を育んでもらおうとする、先人の温かい知恵がうかがえます。お雛様を仕舞う日は、5日以降から中頃までの天気のいい、よく乾燥した日を選んで仕舞つて下さい。

また、初節句の場合はお正月から飾つていただきても構いません。皆でお祝いをしましょう。

お祝いをいただいたたら

通常、お祝いにお招きした方には、お返しは不要です。出席なさらない方へのお祝い返しの品は、「内祝い」として昔からの、お赤飯、お菓子、紅白の角砂糖などですが最近はあまりこだわらないようです。お返しをお届けする時期としては、お祝い会の後1週間以内に直接伺つてお礼を述べるのが礼儀ですが、宅配便でお返しをお送りする場合も多いようです。その際は、お返しの品物と一緒に赤ちゃんの写真とお礼状を添える事もお忘れなく。



※女の子は赤飯です。



おいしい楽しい、ひな祭り

せっかくのひな祭り。おいしい手作り料理でお祝いしてあげたいものですね。お子様と一緒にちらし寿司や雛ケーキを作つてみませんか?おじいちゃん、おばあちゃんや節句のお祝いをいただいた方、親しい方たちをお招きしてみなさんで楽しく過しましょう。

*お祝い会のお料理、あれこれ

一般的には、蛤の潮汁、ちらし寿司、雛あられ、白酒などです。椀……はまぐりの潮汁

※お鍋の貝からは同じものが二つと無く貝がらたりと全く別のものは必ず一組しかありません。

寿司……雛ちらし(でんぶなどで彩り鮮やかに)
魚……お目出度い、鯛が一般的です。
お菓子……雛あられ
白酒……甘酒で代用してもいいようです。



桜鯛のお造り



彩りも楽しい、ちらし寿司